

ブラジル下院議会はテメル大統領への起訴を否決

- 下院はテメル大統領に対する収賄容疑での起訴を否決。最高裁での裁判開始は回避され、テメル政権は続投へ。
- 起訴への反対票が下院議席の過半数を超えたことは、テメル政権の安定維持と経済改革の推進に望みを残す。
- 一部与党議員の離反により、憲法改正が必要な年金改革の実現には反テメル派議員との協調が課題となる。
- 検察によるテメル大統領への追加起訴の可能性や年金改革審議など、9月頃にかけてがテメル政権の正念場に。

下院はテメル大統領への起訴を否決

ブラジル下院は8月2日(現地時間)、テメル大統領に対する収賄容疑での起訴を受け入れるか否かを巡る投票を行い、反対263票・賛成227票で否決しました(図1)。起訴の不成立により最高裁での裁判開始は回避され、テメル政権の続投が決定しました。

テメル政権の維持と経済改革の推進に望み残す

起訴への反対票は、テメル政権の支持基盤のバロメータと捉えることができます。反対票が起訴阻止に必要な172票を大きく上回り、下院議席の過半数(257議席)を超える263票へ達したことは、政権の安定維持と通常法案での経済改革推進に望みを残したと考えられます。

もともと、反対票が憲法改正(年金改革)に必要な5分の3(308票)に届かなかったことや、ブラジル社会民主党(PSDB)など連立与党の一部議員から離反がみられたことから(図2)、今後は反テメル派議員とも協調関係を構築することが年金改革の実現に向けた課題と言えます。

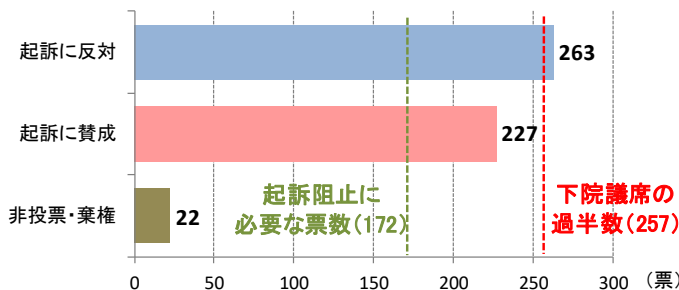
9月頃にかけてがテメル政権にとっての正念場に

JBS問題の発覚をきっかけに混乱したブラジルの政局は収束に向かう兆しがみられます。すでに足元のリアル相場は、JBS問題の発覚前の水準を回復しています(図3)。

当面のところ、9月頃にかけてがテメル政権にとっての正念場となりそうです。第一に、ジャーノ検察庁長官は9月15日の任期満了を前に、司法妨害などの容疑でテメル大統領への追加起訴に踏み切る可能性があります。

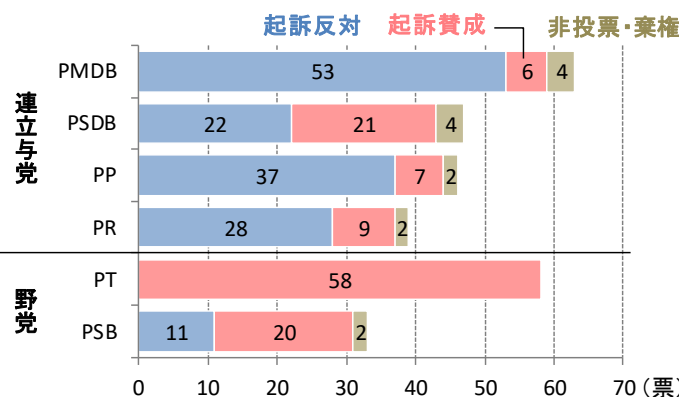
第二に、テメル政権が2017年内に年金改革法案を成立させるには、秋頃までに下院での承認を完了し、法案を上院へ送ることが必要とみられます。2018年は10月の大統領選挙を控えて改革実施が困難になる可能性が高く、年内が年金改革審議の最後の機会となりそうです。

図1: テメル大統領起訴に対する下院の投票結果



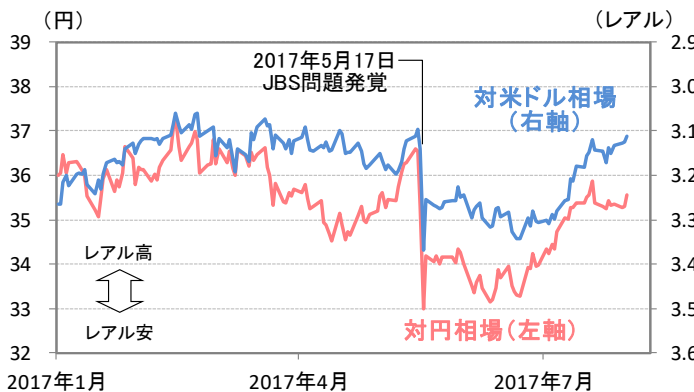
(出所)ブラジル下院 (注)投票は下院議長を除く512名が対象。

図2: 与野党の主要政党の下院投票結果



(出所)各種報道

図3: レアルの対米ドル、対円相場の推移



(出所)ブルームバーグ (注)2017年1月2日~8月2日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。